

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	雑報
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 1 : 43 - 49
Issue date	1891-11-26
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/3708
Right	

家ノ定住所タルあもーばつちニ退隱ス既ニシテ孕メルアリ公爵其子ノ後來英國嫡嗣トナルヲ以テ夫人ニ説テ英ノ地ニ還リ分身セシメントス夫人之ニ從フ公爵大ニ其夫人及ビ胎兒ノ安全ヲ計リあもーばつちヨリけんまんとん宮ニ至ル陸路ヲ親カラ馬車ヲ馭御シテ返レリ實ニ千八百十九年四月初旬ナリ已ニシテ臨月ニ接ス即チ國例ニ依リ侍醫ノ外更ニ博士ちやゝるつと、しゝばるとチ迎聘シテ諸事ヲ委嘱ス皇女ノ生ル、時正サニ午前四時ナリ即チ公爵さつせつくす公爵うゑりんとん大憎正かんだゝふゝりゝ候爵らんすだうんろんどん僧正及ビじよゝじ、かんにんぐ等ノ國務大臣及樞密議員直チニ之ヲ庶衆ニ公達セリ

雜報

●龍南會紀事

涓滴巖ヲ穿ツ。漸チ以テスレハナリ。積羽舟ヲ沈ム。和ヲ以テスレハナリ。之ヲ爲スニ漸チ以テシ。之ヲ行フニ和ヲ以テス。事而ノ就ル。曩ニ我校友徒ノ團體ヲ設ケ。會合ヲ設クルモノ。頗ル多ク。爾來月進月歩。蒸蒸日上。昇ルノ勢アリ。有志ノモノ。是ニ見ルアリ。集メテ大成セシコトヲ謀ル。議今年四月ニ起リ。九月ニ至リテ熟ス。則チ職員生徒中ヨ

リ、七名ノ創立委員ヲ設ケ、規則ヲ編制シ、方略ヲ部署シ、十月廿四日、役員ヲ定メ、今月三日、始メテ開會式ヲ行フニ至レリ、嗚呼本會ノ起ル、既ニ素アリ、何ソ彼ノ危然タル一團ノ集會ト云ハン乎哉、今ヨリ漸チ以テ進ミ、和チ以テ行フ、本會ノ前途、亦タ多望ナル哉。

今役員及ビ各部ノ情況一班ヲ錄ス。

○會長

嘉納治五郎

○委員長

藤本 充安

○雜誌部委員

木崎 虎太

加藤本四郎

白石 秀大

古森 幹枝

佐藤 傳藏

中山文次郎

安住時太郎

江口 俊博

○演說部委員

雜誌部委員ヨリ、月番チ以テ事務ヲ執ル。

○擊劍部委員

藤本 充安

林 市藏

○柔道部委員

野口 彌三

喜入 秀三

○弓術部委員

坂田益次郎

江口 鎮白

○戶外遊戲部委員

平松 末吉

梅野 實

○雜誌部

初メ本校生徒中、研志會ト稱スルモノヲ組織シ、毎月雜誌ヲ發行シ、爾來號

ヲ追フテ二十餘ニ至ル。本會ノ起ルニ及ビ、主トシ加入シ、今ヤ事務ヲ擴張シ、茲ニ始メテ本誌第一號ヲ發兌スルニ至レリ。

演說部。學術ヲ研究シ、品格ヲ高尚ニシ、辨論ヲ磨キ、旁ラ學生ノ交誼ヲ圖ルノ目的

ヲ以テ起リタル土曜會ハ、其創立實ニ去ル廿二年五月ニ在リ、初メ會員僅ニ四十餘名、然レモ會員ノ熱心、委員ノ勵精、特ニ教員諸君ノ有益ナル談話ハ、益々本會ノ隆盛

ヲ來シ、會員ノ數既ニ百ヲ越ユ、本會ノ興ルニ及ビ、亦演說部トシ加入ス、而シテ多ノ歷史ヲ有スルヲ以テ舊名ヲ襲フテ本部ヲ土曜會ト稱ス。

戶外遊戲部。本會各部中、其創立最モ早ク、其範圍最モ大ナルモノヲ本部トス、其興

ルヤ實ニ去ル廿一年ニ在リトス、當時第五高等中學體育會ト名ケ、體育普及ヲ以テ

目的トシ、毎月二回小演習ヲ催フシ、春秋二期大演習ヲ施行セリ、後更ニ組織ヲ改メ、

職員生徒ヲ以テ會員トシ、器械ヲ新調シ、事務ヲ整理シ、事愈緒ニ就クニ至レリ、本會

ノ成ルニ及ビ、合同ノ戶外遊戲部ト稱シ、範圍益々擴張スルニ至レリ。

擊劍部。氣力養成ノ體育ニ必要ナルハ、識者ノ認ムル所、擊劍會ノ興リタル、亦實ニ

茲ニ在リトス、蓋シ其興リタルハ實ニ本年五月ニシテ當時有志者相謀リ、旨ヲ前平山

校長ニ請フ、校長亦タ贊ス、且ツ職員ノ月俸幾分ヲ擲テ、其資ヲ助クルヲ諾ス、則チ武

具數十組ヲ調ヘ雨天体操ヲ以テ道場ニ充テ、當地劍客ノ泰斗和田傳氏ヲ聘シ、師範トス。爾來腕愈健ニ術愈進ム。本會ノ興ルニ及ビ、合ノ擊劍部ト稱シ、組織ヲ改革シ、會員ヲ募集シ、大ニ規模ヲ擴張セントス。

弓術部 体育隆興ノ餘波ハ、延テ射術會ノ組織ヲ見ルニ至レリ。初メ野村君ノ我校ニ長タルヤ、主トシテ射ノ人身ニ利アルヲ認メ、特ニ生駒新太郎翁ヲ聘メ、之ヲ授ケシム。後今ノ校舎ニ轉スルニ及ビ、亦場ヲ設ケ、園助教授ヲ之ヲ教ヘシム。爾來一盛一衰、常無カリシモ、今回龍南會ニ加入スルニ及ビ、愈弓矢ヲ調ヘ、興隆ノ時機將ニ至ラントス。

柔道部 擊劍會既ニ成ル。生徒ノ志有ルモノ、又柔道會ヲ起サンコトヲ謀ル、但師範ノ招聘、會費ノ徵收ニ窮ス、則チ各當地ノ柔術家、矢野、星野、江口諸流ノ門ニ入テ學ブ。會マ嘉納校長至ル、則チ旨ヲ告グ。校長善ミス且ツ曰ク柔道ハ、氣力ヲ鍛練シ、精神ヲ修養スルヲ以テ目的トス。決シテ一般遊戲ト同一視ス可ラスト。則チ從來諸家ノ門ニ入ルモノ二十餘名ヲ擇ミ、校長及ヒ門弟子肝付氏之レカ師範トナリ。柔道有志會ノ組織、輒チ成ル。今ヤ入會者百八十餘ニ達ス。本部ノ隆盛ハ、今日ニ非ズ。當ニ他日ニ在ラシ、今ヤ琅々タル讀書ノ聲ハ、竹刀ノ音、弓弦ノ聲ニ和シ、聞クモノヲ心氣先ツ爽

ヤカナヲシム。加フルニ本會ノ興隆ヲ以テス。後日ノ景況果ノ如何

○天長節 去ル十一月三日ハ、天長節ナルヲ以テ、我校ニ於テハ、例年ノ如ク之ヲ祝シタリ。今其次第ヲ記セシニ、午前九時ノ喇叭ヲ會報ニ、一同本館ノ前ニ整列シ、其ヨリ階上正面ノ室ニ於テ、校長以下職員生徒順次ニ、兩陛下ノ御眞影ヲ拜シ、右畢リテ、雨天体操場ニ集リ、校長先ツ敕語ヲ奉讀シ、引續キ一場ノ演說アリ、次ニ生徒一同、秋山助教授ニ和シテ天長節ノ祝歌ヲ唱ヒ、畢リテ各生徒ニ、敕語ノ印刷セルヲ配布シ、之レニテ全ク式ヲ終リ、十一時三十分、食堂ニ於テ、祝杯ヲ舉ゲタリ。

當日校長演說ノ大意ハ、

凡ソ社會ノ進歩急激ナルトキハ、之ガ爲メ舊來ノ思想ト、衝突ヲ生シ、却ツテ進歩ヲ妨グルコトアリ。我國維新ノ革命以來、其進歩ノ急激ナルコト、從來世界ノ歴史ニ徴シ、未ダ嘗ツテアラザル所ナリ。隨テ新舊思想ノ衝突ヲ生シ、識者ヲシテ其前途ヲ憂ヒシムルニ至レリ。此時ニ當リテ、巧ミニ彼此ノ利害長短ヲ計量取捨シテ、我國進歩ノ先導者トナルモノハ、實ニ高等ノ教育ヲ受ケタルモノニアラザレバ、能ハザルナリ。政府ノ中學大學ヲ設クルノ旨意モ、亦此等先導者トナルベキ人物ヲ、養成スルノ外ニアラザルベシ。開國以來、我國ノ文物、大ヒニ進歩シタリト雖、之

チ歐米諸國ニ比スレバ猶ホ未ダ低度ニアルヲ免レズ將來之ヲ導ヒテ學問技藝ニ内政ニ外交ニ彼ノ諸國ヲ凌駕スルニ至ラシムルハ實ニ諸君ノ責任ナリトス此責任ヲ全フスルニハ先ツ形ヲ後ニシテ精神ヲ先ニセザルベカラズ如何ナル困難アルモ必ズ我國ヲシテ歐米諸國ヲ凌駕スルニ至ラシムルノ精神ヲ確立セザルベカラズ德ヲ修メ智ヲ研キ体ヲ練ルハ皆此精神ヲ貫クノ手段タルニ外ナラザルヲ以テ諸君ハ先ツ第一ニ此精神ヲ定ムベキナリ云々

○本會開會式　モ亦同日ヲ以テ執行サレタリ前項敕語配布ノ畢ルヤ嘉納會長ハ演壇ニ上リ本日ヲ以テ龍南會ノ開會式ヲ行フ旨ヲ告グ一場ノ演說アリ次テ藤本充安松崎基礎両氏ノ演說隈本繁吉氏ノ祝文朗讀アリ餘興トシテ生徒扣所ニ於テ講談師池田某ヲシテ義士銘々傳ヲ演セシメ席上茶菓ヲ喫シ全ク散會シタルハ午後三時頃ナリキ

○クラムミール氏　去ル明治二十一年五月我校ニ傭聘セラレテヨリ今日ニ至ルマデ殆ソド四ケ年間専ラ我校ノ英語科敎授ニ任ゼラレタル同氏ハ本月中我校ヲ辭シ越中富山ニ赴カレントスル由ニ付去ル六日生徒三百餘名ハ本校ニ於テ紀念ノ爲メ同氏ト共ニ寫眞ヲ撮リタリ

○内田虎三郎君 本科二部一年生、内田虎三郎君ハ海軍兵學校ノ入學試験ヲ受ケテ、及第シタルヲ以テ、同校ニ入學スル爲メ、十月卅一日退校シタリ、右ニ付十一月二日、離別會ヲ鴨川亭ニ開ク、會スルモノ四十餘人。

○震災義捐金 尾濃地方、大地震ノ慘狀ヲ知ルモノ、誰レカ爲メニ惻怛ノ情ヲ起サザルモノアラシヤ、去レバ寄宿舍第十二室ノ生徒發起シテ、罹災者救助義捐金ヲ募集セリ、應ズルモノ甚ダ多シ。